



## 『「帰り道」から考えるモビリティ・マネジメント教育』

【金沢大学人間社会学域教育学類附属特別支援学校 教諭 吉岡学】

夕暮れになると子ども達は、学校から小さな冒険をしながら楽しく家に帰っていく。また、大人たちは、仕事の疲れをいやす為に酒場などに寄って帰っていく。このように“帰り道”は気の向くままに色々な場所へ移動（モビリティ）したり、時には普段と違った道を自分で選択したりして帰宅するものである。

これこそが、私の考えるモビリティ・マネジメント教育（以下、MM教育）の原点であると思う。一人ひとりの移動（モビリティ）を通して自発的な行動を取れるような人間の育成を可能にするのが、この“帰り道”での様々な経験ではないだろうか？

昨今、子ども達は塾通いや習い事など多忙化し、“帰り道”での様々な経験が少なくなってきた。また、知的障害を持った子ども達の場合、“帰り道”は安全確保のため学校から自宅や福祉施設間は車での送迎になっており、様々な経験が全くできない状況である。

今回、私たちは知的障害をもった子ども達が交通移動（モビリティ）を通して自発的な行動が取れるような人間の育成（MM教育）のための教育実践をおこなってきた。この実践は、知的障害をもった子ども達に疑似的に“帰り道”の様々な経験をしてもらい、交通ルールなどを学んでいくものであった。その結果、これらの経験がMM教育で非常に重要な要素を含んでいる”ということが明らかになった。

今後も、普段行われている何気ない“帰り道”の経験こそ私たちは大切にしていきたいと思う。